

令和元年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、3項目を重点課題として取り組んだ。取り組み当初に設定した数値目標については、どの項目もほぼ達成することができた。各重点課題の評価は次の通りである。

(1) 教育的ニーズに基づく学習指導の充実

令和2年度からの新学習指導要領の実施に向け、昨年度は授業改善を中心に取り組んだ。さらに、今年度は「何ができるようになるか」「何を学ぶか」に焦点を当て、学習内容と学習過程を構造化することで児童生徒の学びの明確化に取り組んだ。教科等横断的な学習内容表を作成するにあたり、各学部で10回以上の検討会を実施し、適宜進捗状況を研究推進委員会等で報告するなど、児童生徒の学びの連続性を念頭に置いた取組を実施することができた。また、現行の教育課程を見直す契機ともなった。さらに、主体的・対話的な学習について、7例の実践事例を全職員に紹介し、校内のネットワーク上で共有できるようにした。

(2) ボッチャの啓発・普及により余暇を楽しむ力を育てる学習活動の充実

身体の動きに困難さがあり、生活経験も乏しい児童生徒が気軽に行える障害者スポーツとして、2年前からボッチャに取り組んできた。東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、より身近なスポーツとして根付くよう用具の整備やルールの周知等のハード面の整備と、各学部での体育科の授業での実施、全学部縦割りのグループ編成での全校ボッチャ大会を行った。全児童生徒が目標回数の3回以上試合に参加し、ボッチャ大会に関するアンケートでは満足度「よかった」90%を目指したところ82%達成することができた。

(3) 保護者のニーズに合わせた懇談会等による保護者との連携

昨年度実施した外部評価で、教員と意見交換を行う機会をもっと増やして欲しいという保護者の意見があった。保護者とは連絡帳や登下校時を活用して日々情報交換を行っているが、他には来校する機会は限られている。保護者のニーズを把握するためにアンケートを実施し、ニーズを四つのテーマに分け懇談会を実施した。教員側はテーマにより分掌・学部主任、特別支援教育コーディネーターが参加し、また、卒業生保護者にも参加してもらった。テーマにより学部の偏りはみられたものの毎回多数の保護者の参加があった。終了後のアンケートには「他の保護者の話が聞けた」「悩みを相談できた」等の記述があり、「とてもよかった」「よかった」の評価を98%得ることができた。

2 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題の設定目標は概ね達成することができたが、今後も継続して取り組み、定着や発展を図る必要がある。次年度に向けた方策等については、以下の通りである。

- (1) カリキュラム・マネジメントの理念の基、学校課題解明に向け、教育課程編成や学習内容の整理、授業改善に主体的に取り組む必要がある。
- (2) ボッチャが、障害者スポーツの一つとしてより身近なスポーツとなるように、継続的に各学部や寄宿舎で取り組む（参加・観戦）ようにする。
- (3) 今後も継続的に保護者からの意見や情報を収集し、ニーズに応えながら連携を図れるように努める。

3 学校アクションプラン

令和元年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	教育的ニーズに基づく学習指導の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領では、資質・能力を育むため「何ができるようになるか」を明確にしなが、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学習の過程を組み立てていくことが重要であると挙げられている。そのために、教科等の学習内容を見直し、教育課程ごとに学習内容を構造化することで、全児童生徒が「何を学ぶか」を明確にする必要がある。 ・昨年度まで「どのように学ぶか」に焦点を当てた研修の取組からの課題を受け、今年度からは各学部、学年、教育課程ごとに教科等横断的な視点に立った学習内容を見直し、計画的に授業実践を行うことによる学習指導の充実が求められている。 ・児童生徒は、身体の動きの困難さから限られた生活経験、知識やスキルの汎化の難しさ、また、対人関係、コミュニケーションの難しさがある。幅広い学習場面で分かりやすく学ぶ手立てを講じ、生活の場面で活用できる力の育成が必要である。 ・児童生徒が主体的に取り組み、深い学びに導くための学習指導に向けて、児童生徒に合った教材作成等の工夫が必要である。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上</td> <td>主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上</td> </tr> </table>	教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上	主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上
教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上	主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家によるカリキュラム・マネジメントについての研修会を行う。 ・児童生徒の教育的ニーズを把握する手立てとして、「児童生徒を理解するための「ワークシート」を活用した的確な実態把握を行い、教科等横断的な学習内容表の作成に生かす。 ・各学部で児童生徒の実態に応じた教科等横断的な学習内容表を作成し、全教員で共有する。 ・授業実践として、主体的・対話的な学習の実践事例（教材・教具を含む）を教員間で共有することで、本校教職員の更なる専門性の向上を目指す。 		
達成度	<table border="1"> <tr> <td>学部検討会の実施（12月末時点） 小学部12回 中学部9回 高等部10回</td> <td>実践事例（教材・教具を含む） 全校で7事例</td> </tr> </table>	学部検討会の実施（12月末時点） 小学部12回 中学部9回 高等部10回	実践事例（教材・教具を含む） 全校で7事例
学部検討会の実施（12月末時点） 小学部12回 中学部9回 高等部10回	実践事例（教材・教具を含む） 全校で7事例		
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教科等横断的な学習内容表作成の取組について ・6月にカリキュラム・マネジメントについての研修会を行い、新学習指導要領の四つのキーワードを切り口に、教科等を学ぶ意義と教科等間、学校段階間を踏まえた教育課程や授業の充実について講義を受けた。 ・各学部で少人数のグループを編成し、毎月の学部研で教科等横断的な視点に立った学習内容表の作成に取り組んだ。定期的に各グループの進捗状況を報告し合い、今後、学校課題研究が学びの連続性による児童生徒のスムーズな学習と進路先への移行につながるよう共通理解を図った。 ○児童生徒が主体的に取り組むための学習の実践事例（教材・教具含む）について ・研修部を通して全学部に募り、小学部4事例、中学部1事例、高等部2事例が挙げられた。全職員に紹介し、各自の指導に生かせるように共有した。 		
評 価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>達成目標を十分に達成した。</td> </tr> </table>	A	達成目標を十分に達成した。
A	達成目標を十分に達成した。		
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学部検討会の回数を達成目標の指標とするのは何が成果となったのか、また実践事例数との関連も分かりにくいのではないかと。しかし、この取組により、どのような時期にどの学習内容を、どの教科と関連付けて行うことが育みたい力の実現につながるのかが明らかになり、さらに指導の手立ての検討や計画の見直しに生かせると思われる。今後も引き続き子供達が主体的に取り組み、深い学びにつながる指導をしていただきたい。 		
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容表を基に授業実践を行い、学習の成果を的確に捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業のPDCAと授業の内容や他教科等との関連を検討しつつ、教育課程の評価・改善につなげていくシステムを構築する必要がある。 ・今後も教師間で、教材・教具の製作や使用を含む実践事例を共有し、教員各自の専門性の向上を図っていく必要がある。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和元年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	特別活動	
重点課題	ボッチャの啓発・普及により余暇を楽しむ力を育てる学習活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック、パラリンピックを来年に控え、障害者スポーツへの関心が高まりつつある。身近にできる障害者スポーツとして「ボッチャ」があり、本校でも昨年、一昨年と全校あげて大会を実施してきた。 ・身体の動きに困難さがあり、生活経験が乏しい児童生徒が多い中で、ボッチャは手軽にできる障害者スポーツとしてとても有効で、「ボッチャ甲子園」などの全国大会もある。 ・児童生徒が主体的に活動し、より身近なスポーツとしてボッチャが根付いていくためには、関わる者(指導する教職員や児童生徒)が試合の流れやルールを理解し、意図的に環境を設定する必要がある。 ・寄宿舎も含め、学校生活の中で、生活を豊かにし、「見るスポーツ」から「みんなが楽しみ、行うスポーツ」を数多く体験させ、生涯学習や余暇活動につなぐ取組が必要である。 	
達成目標	全校ボッチャ大会に向けて、試合形式のボッチャへの参加(児童生徒)一人3回以上	ボッチャ大会に関するアンケートの実施 よかったの意見・満足度 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会等で身近にできる「ボッチャ」の競技について紹介し、そのルールや方法について周知できる機会を設定する。 ・2学期末の全校ボッチャ大会に向けて、各学部、寄宿舎でいつでも児童生徒が練習に取り組めるよう、コート整備、用具の貸し出し等を行う。 ・大会に向けて、各学部・寄宿舎でも試合形式でボッチャを実施してもらい、ボッチャのルールの理解、作戦のたて方など、ボッチャの楽しさを数多く経験するとともに、大会後にアンケートを実施し、その満足度を把握する。 	
達成度	全児童生徒が3回以上 100%	児童生徒の満足度 82% (大会は楽しかったですか)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ボッチャの競技紹介、ルールや方法についての周知 ・7月の全校集会で全校児童生徒に向け、児童生徒会執行部による競技説明会を行うとともに、児童生徒会の掲示板にボッチャの紹介コーナーを設けた。 ・指導する教職員には競技解説書を配付した。また、各学部での取組が共有できるように記録用紙を1学期末から職員室に掲示した。 ○コート整備、用具の貸し出し ・各学部、寄宿舎がいつでも活動できるようにボッチャ用具の貸し出しを行った。 ・9月までに体育館に正式コートを1面、12月までに3面を体育館に整備した。 ○全校ボッチャ大会の準備、12月19日大会実施 ・10月の全校集会で、全校ボッチャ大会のチーム分けを発表し、小・中・高のメンバーがそろってチームの名前を決め、予選リーグの組み合わせ抽選会を行った。 ・全校ボッチャ大会の詳細、チーム一覧、予選リーグの組み合わせを体育館前廊下に掲示し、児童生徒が確認できるようにした。 	
評 価	B	達成目標をほぼ達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の身体状況等を踏まえると、児童生徒の満足度82%という結果はとてもよい結果ではないかと考える。余暇活動としては、スポーツ観戦などの話題でもコミュニケーションが取れるような体験を増やしていくことも大切だと思う。 ・自分が経験したボッチャ競技が東京パラリンピックでも実施されるということで、より興味をもって観戦したり、活動に取り組んだりできるのではないかと。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員が気軽にボッチャのゲームに取り組むことができるように、集会やミニゲーム大会など、学校全体で活動を計画的に取り組んでいきたい。 ・今年度の全校ボッチャ大会の反省を基に、大会の運営方法や実施日などについても検討し、本校での活動を充実させ、今後は対外的な大会にも参加していきたい。 ・余暇を楽しむという観点で、ボッチャ、その他の障害者スポーツに触れる機会を増やし、児童生徒が自主的に取り組むことができるよう支援していきたい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	保護者のニーズに合わせた懇談会等による保護者との連携	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した保護者アンケートでは、教員ともっと連携したい、意見や情報を交換したい、悩みや情報を共有するための機会が少ない等の意見が多くあった。 ・日々の登下校時の他に、保護者が学校を訪れる機会は限られており、保護者が担任以外の教員の話の聞いたり、学部の垣根を超えて先輩保護者の話を聞いたりする機会は少ない。 ・保護者の悩みや必要としている情報は、所属する学部や児童生徒の年齢によって異なる。そのため保護者のニーズを十分に把握し、それに応じて学校が情報を発信したり、保護者と直接意見交換をしたりしていく必要がある。 	
達成目標	懇談会の回数 4回以上	懇談会等による保護者アンケートの実施 満足度 よかった以上80%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に、子供への日々の関わりや生活習慣の形成、健康の維持、卒業後の進路等についてアンケートを実施し、悩みや必要としている情報を把握する。 ・アンケートは、保護者が回答しやすいように、各項目ごとに選択肢を複数用意し、その中から懇談会等で取り上げてほしいものを選ぶことができるようにする。 ・保護者のニーズに応じた懇談会等を企画・設定し、保護者が必要としている情報を関係学部や分掌などから提供したり、保護者同士で意見や情報を交換したりできるようにする。 ・多くの保護者に懇談会に参加してもらうため、参加しやすい日を設定したり、他のPTA行事と同日に開催できるように配慮したりする。 ・懇談会後にアンケートを実施し、成果や課題を把握する。 	
達成度	懇談会の実施回数 4回	懇談会の事後アンケートの結果 満足度 よかった以上 98%
具体的な取組状況	<p>○保護者アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会のテーマを決定するために、6月に保護者アンケートを実施し、保護者が現在抱えている悩みや必要としている情報を把握した。 ・アンケート結果を基に、保護者のニーズに合わせた4回の懇談会を企画した。各懇談会のテーマは以下の通りである。 第1回：余暇活動、デイサービス・ショートステイの利用 第2回：進路決定までの流れや年齢に応じた準備 第3回：進路決定までの具体例 第4回：コミュニケーションの方法、子どもとの関わり方 ・懇談会に保護者が参加しやすい工夫として、学期末の個別懇談会やPTA奉仕活動、PTA進路研修会などに合わせて実施日を設定した。 <p>○テーマ別保護者懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に1回、2学期に3回の懇談会を実施した。各会の参加者は次の通りである。 第1回：10名、第2回：30名、第3回：26名、第4回：7名 合計73名 ・懇談会は座談会形式で行い、テーマについて保護者同士で情報や意見を交換したり、保護者が抱える悩みや疑問に対して教員がアドバイスをしたりした。 ・保護者の反応はおおむね良好で、事後アンケートの結果に反映されていた。よかった点として、「他の保護者の方の話が聞けたこと」、「悩みを相談できたり、必要な情報を得ることができたりしたこと」等の回答が多かった。 	
評 価	A	達成目標を十分に達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会は、保護者間、保護者と教員の意見交換の場という意味で、とてもよい取組である。進路関係以外のテーマでは参加者がやや少ないので、PRの仕方や実施日の設定などを工夫すればさらに参加者が増え、有意義な会になると思われる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して保護者の意見や情報を積極的に収集し対応していきたい。内容によっては、担任だけでなく、学部や分掌との連携も積極的にすすめたい。 ・懇談会に参加した保護者の要望として、もう少し早く日程を連絡してほしいという声があった。実施計画を早めに立て、余裕をもって保護者に周知する必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)